

大阪府公立高等学校入学者選抜制度改善方針の概要

■ 選抜の種類（日程）

1 特別選抜（2月中～下旬）

学科等	選抜資料
実技検査により技能を測る学科 全日制の課程 建築デザイン科・インテリアデザイン科・プロダクトデザイン科・映像デザイン科・ビジュアルデザイン科・デザインシステム科・美術科・体育に関する学科・芸能文化科・演劇科・音楽科・総合造形科	学力検査（5教科）・実技検査・調査書・自己申告書
面接等により意欲を測る学科等 全日制の課程 デュアル総合学科・総合学科（エンパワメントスクール） 多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部（クリエイティブスクール） 定時制の課程（昼夜間単位制）	学力検査（5教科）・面接・調査書・自己申告書

2 一般選抜（3月初～中旬）

学科等	選抜資料
全日制の課程 特別選抜を実施しない全ての学科	学力検査（5教科）・調査書・自己申告書
定時制の課程（昼夜間単位制を除く。） 多部制単位制Ⅲ部（クリエイティブスクール）	学力検査（3教科）・調査書・自己申告書
通信制の課程	面接 [自己申告書] ^(*) ・調査書

3 二次選抜（3月下旬）

学科等	選抜資料
志願者数等が募集人員に満たなかった学科等	面接 [自己申告書] ^(*) ・調査書

4 その他の入学者選抜（2月中～下旬）

各選抜の名称	選抜資料
帰国生選抜	学力検査（数学・英語）・面接 [自己申告書] ^(*)
中国等帰国外国人生徒選抜	学力検査（数学・英語）・作文〈日本語以外可〉
中高一貫選抜	小論文・面接 [自己申告書] ^(*) ・調査書
自立支援選抜	面接 [自己申告書] ^(*) （保護者同伴）・調査書・推薦書
自立支援補充選抜（二次選抜と同時に実施）	同上
秋季選抜（9月中旬に実施）	基礎学力診断検査（3教科）・面接 [自己申告書] ^(*)

（* [自己申告書] は面接の参考資料とする。）

■ 複数志望

募集人員を複数の学科等ごとに設定している学校では、原則として、同一の学力検査問題を使用することとし、同一校内の異なる学科等間の第1志望・第2志望等、複数志望を認める。

■ 調査書

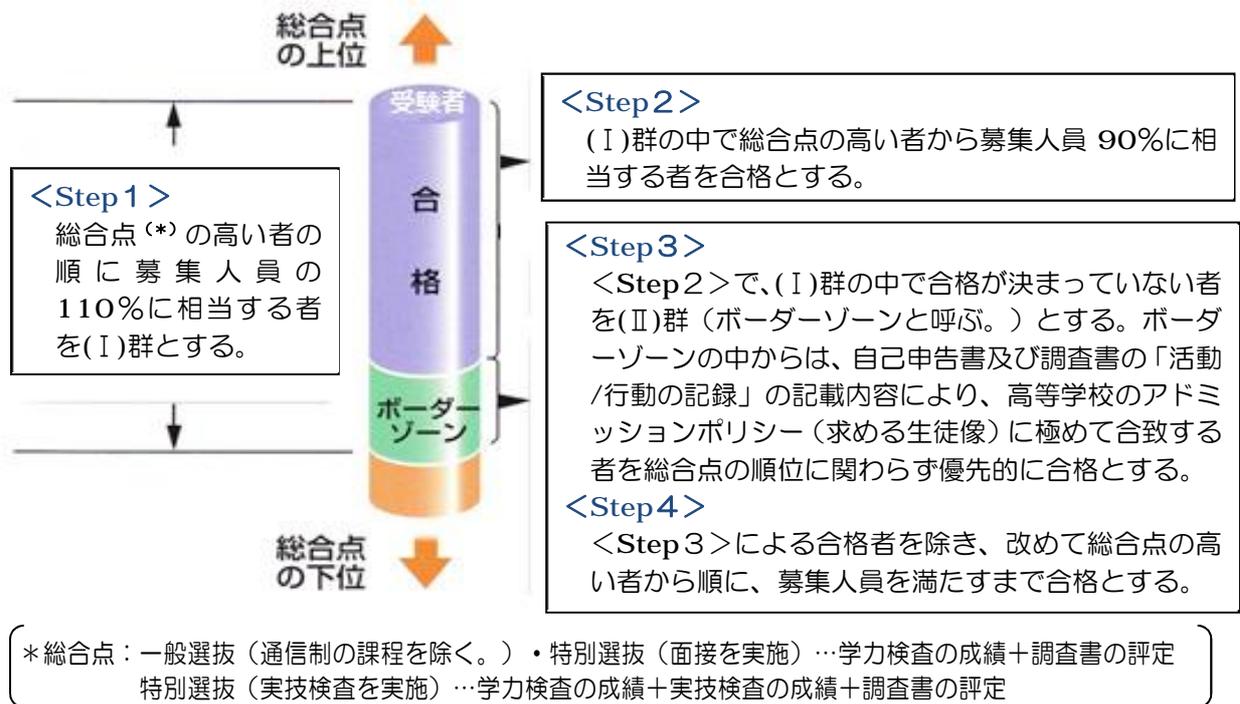
- 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）を平成28年度入学者選抜から導入する。
- 評価対象学年を全学年とし、第3学年の評定を重く評価する。
 - H28年度選抜：第3学年の評定のみ活用
 - H29年度選抜：第3学年・第2学年の評定を活用 ≪3年：2年＝3：1≫
 - H30年度選抜以降：全学年の評定を活用 ≪3年：2年：1年＝3：1：1≫
- 記載項目は、「各教科の学習の記録」（評定）及び「活動/行動の記録」とする。
- 学力検査の成績と調査書の評定の比率については、3：7～7：3の5つのパターンから高等学校が選択し、教育委員会に申請する。
- 全9教科の評定を同等に扱う。

■自己申告書

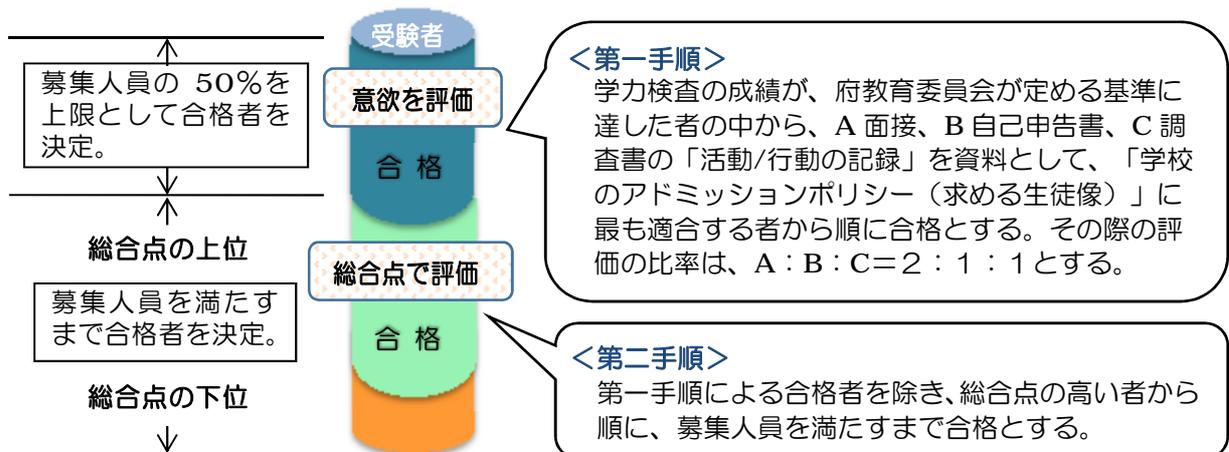
- 1 受験生全員が出願時に提出する。（中国等帰国外国人生徒選抜を除く。）
- 2 毎年、府教育委員会がテーマを提示する。
- 3 一般選抜（通信制の課程を除く。）及び実技検査を実施する特別選抜において、ボーダーゾーン内の選抜資料とする。（下記「合格者の決定方法」参照）
- 4 面接を実施する特別選抜において、選抜資料及び面接の参考資料とする。（下記「合格者の決定方法」参照）
- 5 一般選抜（通信制の課程）、二次選抜及びその他の入学者選抜においては、面接の参考資料とする。

■合格者の決定方法

- 1 一般選抜（通信制の課程を除く。）・特別選抜（実技検査を実施）
（複数志望できる学科等の合格者決定方法は、以下を基本とし、別に定める。）



- 2 特別選抜（面接を実施）
（複数志望できる学科等の合格者決定方法は、以下を基本とし、別に定める。）



- 3 一般選抜（通信制の課程）・二次選抜
面接（自己申告書及び調査書の「活動/行動の記録」を参考資料とする。）の評価及び調査書の記載内容を総合的に判断し、合格者を決定する。
- 4 その他の入学者選抜
各選抜において、選抜資料を総合的に判断し、合格者を決定する。